特集3　持続可能な未来のあいちの担い手育成「人づくり」
～あいちの未来クリエイト部～

本県は、愛知万博や COP10、ESD ユネスコ世界会議の開催により育まれた県民の皆様の高い環境意識と、日本一のモノづくり地域として世界に誇る高度な産業力・技術力を生かして、環境施策においてトップランナーである「環境首都あいち」を実現し、世界の持続可能な発展に貢献していくことを目指しています。このため、持続可能な社会の担い手を育成する「人づくり」に重点的に取り組んでいます。

これまで、幼児、小中学生、大学生の各年代に応じた、次世代の担い手を育成する事業を実施してきましたが、平成 29 年度からは新たに高校生を対象とする事業「あいちの未来クリエイト部」を始めました。

1　概要

あいちの未来クリエイト部は、県内の高校生のグループが、自分たちが興味のある環境課題について、NPO・大学等と連携して調査・研究を行い、その結果を基に、若い世代に向けた環境学習プログラムを作成するという活動を行っています。

平成 29 年度は、５校のグループが、専門的な助言を行うアドバイザーや活動全体の進行を補助するファシリテーターの支援を受け、７月から 10 月の間にそれぞれの環境課題に関する活動を実施しました。

あいちの未来クリエイト部の活動概要

グループ	環境課題、活動のねらい、アドバイザー、ファシリテーター
県立安城南高校 自然科学部	**学校周辺河川の水質改善** 「今までとは違った方法で川の水質について調べたい」、「学校周辺により豊かな生態系を育むために、地域の人たちに川のことを知ってもらいたい」 ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：豊田市矢作川研究所　研究員　白金晶子 氏 ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：NPO 法人アスクネット　代表理事　白上昌子 氏
県立木曽川高校 総合実務部	**イタセンパラを守れ！広報活動とワンドの保全活動** 若い世代を中心とする地域の人々に「もっとイタセンパラや木曽川について知ってもらいたい」 ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：岐阜経済大学経済学部　教授　森誠一 氏 ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：環境省中部環境ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟｵﾌｨｽ　ﾁｰﾌﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ　新海洋子 氏
県立武豊高校 自然科学部	**学校周辺の湿地と希少種等の保全** 「新たな活動として知多半島の湿地について調査を行いたい」、「学んだことを発信して、地域の人にも湿地のことを知ってもらいたい」 ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：愛知学院大学教養部　専任講師　富田啓介 氏 ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：(株)フルハシ環境総合研究所　代表取締役所長　浅井豊司 氏
県立知立東高校 自然科学部	**猿渡川の環境と生きものの関わり** 「猿渡川周辺の植物の生育状況を知りたい」、そして、「環境と人間のかかわりについて地域の人たちと考えていきたい」 ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：人間環境大学人間環境学部　准教授　藤井伸二 氏 ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：愛知教育大学教育学部　教授　大鹿聖公 氏
県立松平高校 学校家庭クラブ活動	**竹の有効活用による里山の保全** 「地域の竹林や自然環境について改めて考えたい」、「取組をより地域に貢献できるような活動にしたい」 ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：金城学院大学薬学部　准教授　吉田耕治 氏 ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：１級ビオトープ計画管理士　長谷川明子 氏

2　各グループの活動

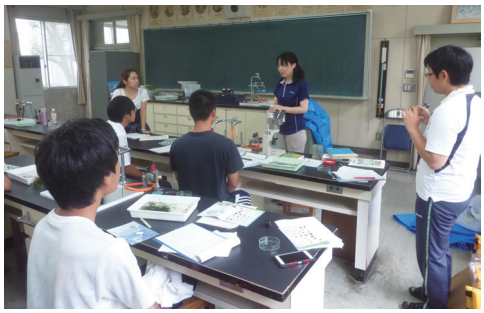
（1）県立安城南高校　自然科学部

～学校周辺河川の水質改善～

安城南高校自然科学部では、これまで学校周辺を流れる鹿乗川（かのりがわ）、矢作川などで簡易キットによる水質調査や魚の生息調査を行ってきました。

今回の活動では、今まで行ってきた調査に加え、新たにアドバイザーから教わった水生生物による水質調査を鹿乗川において実施しました。

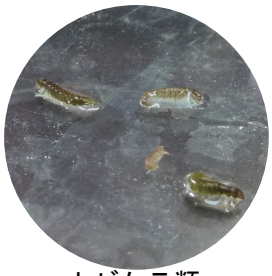
鹿乗川における生物採取の様子



アドバイザーからの指導

同定作業の結果、想像よりも多い 15 種類の生物を確認でき、この中には指標生物である水質階級Ⅱの「トビケラ類」も含まれていました。

生物の同定作業



トビケラ類

指導を受けながら調査を実施したことで、川への興味がより深くなったことから、地域の小学生が川の調査を実施し、身近な川の環境を守る行動を起こすきっかけとなるように、クイズに答えながら川に生息する生物や水質の調査方法を学べる小学生向けの教材「クイズで知ろう！あんじょうしのいきもの」を作成しました。

また、今回の活動を通し、高校生たちからは、「身近な川に親しみを持つとともに、川だけでなく山など様々な自然への興味が湧いた。」という発言がありました。

安城南高校のメンバー

（2）県立木曽川高校　総合実務部

～イタセンパラを守れ！広報活動とワンドの保全活動～

木曽川は、国の天然記念物に指定されている希少な淡水魚「イタセンパラ」の世界で３地域しかない生息地の一つです。木曽川高校総合実務部は、イタセンパラの生息地であるワンド※の保全活動に参加してきました。

※ワンド：本川のそばにある大きな水たまり。魚類などの水生生物に安定した棲み処を与えるとともに、様々な植生が繁殖する場にもなっています。

これまでの活動のふりかえり

今回の活動では、イタセンパラの他の生息地域における活動や、より詳しい生態を学ぶために、大阪府の淀川水系での保全活動を見学するとともに、木曽川流域を始めとする各地で行われている淡水魚の学習会などに参加しました。この活動を経て、「イタセンパラを保護していくためには地域ぐるみの活動が必要」との思いを、グループ内で認識しました。

淀川 城北ワンドの見学

そのためには、「地域の人たちにイタセンパラの重要性を知ってもらうとともに、木曽川は地域にとって貴重であることを認識してもらう必要がある。」と考え、イタセンパラの生態や木曽川の環境を楽しみながら学ぶことができる「イタセンパラ（板鮮腹）かるた」を作成しました。

プログラム作成に向けた検討

また、高校生たちからは、環境学習プログラムを作成したことで、「環境分野の知識だけでなく、若い世代への伝え方について学ぶことができた。」という発言がありました。

木曽川高校のメンバー

（３）県立武豊高校　自然科学部

～学校周辺の湿地と希少種等の保全～

知多半島には壱町田（いっちょうだ）湿地を始めとするいくつもの湧水湿地があり、高校の近くにもあまり知られていない湿地があります。武豊高校自然科学部は、これまで活動していなかった湧水湿地に関する活動を実施することとしました。

今回の活動にあたり、アドバイザーから湿地の特徴について説明を受け、湿地には独特の生物相が形成されていることを学びました。これを踏まえ、学校近くにある大谷（おおたに）湿地において、植物や昆虫の観察や、水質の調査を行いました。

湿地の調査

トウカイコモウセンゴケ

ハッチョウトンボ

調査の結果、湿地特有の植物であるトウカイコモウセンゴケや昆虫のハッチョウトンボといった生きものを確認するとともに、大谷湿地は、湿地の保全のためにはあまり良くない富栄養化の傾向を示していることが分かりました。

知多半島の湿地を保全していくために「地域の人々に湿地について知ってもらい、地域で守っていくことが必要だ。」と感じたため、湿地の特徴、生息・生育する生きもの、湧水湿地の重要性や危機を伝える高校生向けのクイズ「湿地を学ぶ冒険」を作成しました。

プログラムの解説の様子

活動前は、湿地について興味がなかった高校生たちですが、実際に湿地で調査を行い実物の植物や昆虫に触れたことで、湿地や生物に対する見方が変わるとともに、その保護の必要性を訴えることの大切さに気付きました。

武豊高校のメンバー

（4）県立知立東高校　自然科学部
～猿渡川（さわたりがわ）の環境と生きものの関わり～

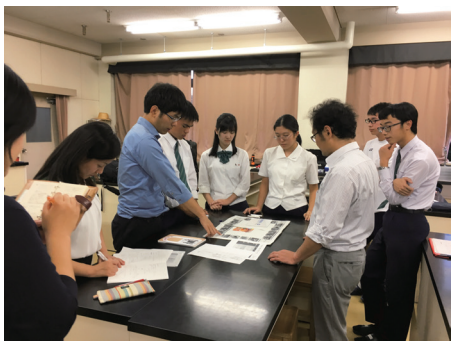
知立東高校自然科学部では、これまで学校周辺を流れる猿渡川のカメの生息状況を調査してきました。その結果、在来種のニホンイシガメの他、外来種のミシシッピアカミミガメが数多く生息していることがわかっています。

今回の活動では、ミシシッピアカミミガメのエサとなる植物の調査を通じてカメの生態について更に深く研究しました。アドバイザーの指導を受けて、実際に猿渡川で植物調査を行い、生育している植物を同定しました。今回、アドバイザーに教わった調査を今後も継続して行っていくことで、ニホンイシガメやミシシッピアカミミガメの食性など生態に関する研究に活用していく予定です。

植物の採集

植物の同定

また、地域の方々に、環境と人間の関わりについて知ってもらうために、今回調査した猿渡川のカメや植物を題材として自然環境に対して外来種や人が与える影響を学ぶことができるボードゲーム「すごろくカメマス」を作成しました。今後は、これを活用して地域の小中学生に環境学習を行う予定です。


プログラムの内容を検討している様子

高校生たちは、今回、これまでのカメの調査につながる川の植物調査を行ったことで、カメだけでなく植物の見方が変わるとともに、プログラムを作成していく過程で、メンバーと協力したり、自主的に考え、行動するようになりました。

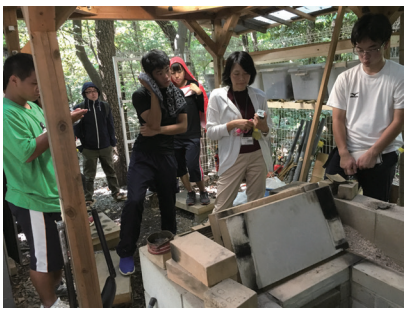
知立東高校のメンバー

（5）県立松平高校　学校家庭クラブ活動
～竹の有効活用による里山の保全～

豊田市松平地区は里山の多くがうっそうとした竹林となっており、松平高校学校家庭クラブ活動は以前から地域の人たちと協働して伐採された竹を活用した竹炭製品の開発・販売をしています。

今回の活動では、アドバイザーが竹林整備を含めた里山保全活動を行っている金城学院大学を訪問し、日本の自然環境の変化について教わったうえで、実際に保全活動が行われている学内の里山を見学しました。

里山の訪問


炭焼き窯の見学

その結果、適度に人の手が入った里山における雑木林の明るさや生育する植物の多様さを実感し、松平地区においても里山の保全活動を推進する必要があることを認識しました。

プログラムの説明

高校生たちができる活動として、「竹製品で遊び、竹を身近に感じてもらうとともに、地域の竹林や自然環境の抱える問題について伝えることで地域に貢献しよう。」と考え、小さな子どもたちが竹に親しみを持てるようなすごろくゲーム「たけスゴ！」と、小学生が在来種のマダケと外来種のモウソウチクの違いを知ることができるカードゲームを作成しました。

高校生たちは、地域の竹が環境問題になっていることを身近に感じたことで、「食品や生活用品に竹を活用していく方法を考えたい」など、保全活動への意欲が生まれました。

松平高校のメンバー

3　プログラムの活用

（1）Let's エコアクション in AICHI での実施

11 月 18 日(土)、19 日(日)に金山駅周辺で開催した県主催の環境イベント「Let's　エコアクション in AICHI」に、あいちの未来クリエイト部全５グループが参加し、自分たちが作成した環境学習プログラムを、小学生を始めとする来場者に体験してもらいました。

この体験を通じて、自らが学んだことや感じたこと、地域の環境を守っていきたいという思いを来場者に伝えました。いずれのプログラムの参加者も楽しそうに環境について学んでいました。各グループは参加者の声などを参考に、環境学習プログラムを更に良いものとしていきます。

安城南高校

木曽川高校

武豊高校

知立東高校

ステージ発表

松平高校

（２）環境学習プログラムの普及・活用

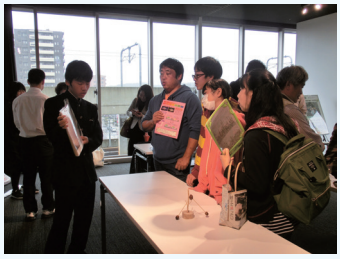
各グループが作成した環境学習プログラムは、高校生たちが地元の小学校や催事で実施するなど、地域で活用するとともに、県の環境学習施設「あいち環境学習プラザ」で使用、貸出しを行います。また、県では、各グループの活動内容やプログラム概要を発信するなど、あいちの未来クリエイト部の PR と作成した環境学習プログラムの普及を図っていきます。

ユネスコスクール交流会でのプログラムの試行

あいちの未来クリエイト部は、10 月 29 日（日）に東海市芸術劇場で開催された「ユネスコスクール交流会」（愛知県教育委員会主催）にブース出展し、安城南高校自然科学部と木曽川高校総合実務部の２グループが参加しました。

２グループが自分たちの作成した環境学習プログラムを、来場した小中学生などを対象に実施しました。また、グループ同士でプログラムの体験や、意見交換を行いました。この試行を経て、プログラムがさらに良いものになるよう、磨き上げました。

参加したメンバー



ワークショップの様子